

アンコール寺院の調査

西トップ寺院の2007年12月の調査風景。南北に大小3塔がそびえる西トップ寺院を北から撮影。中央に高く見えるのが中央塔で、その右側に崩れているのが北小塔。今後の調査では中央塔と北小塔の東側に南北にトレンチを設定した。

本文24頁参照（撮影：井上直夫）



高松塚古墳石室解体

事前調査では、壁石と壁石が接している部分を入念に観察し、石材移動の際にどちらの石材も損傷することがないように、移動方法について検討を繰り返した（写真右）。

治具を用いて壁石を固定し、安全に梱包作業ができる位置までゆっくりと移動している。この間、治具の歪みや石材内部で発生する可能性のある微小な破壊音などのモニタリングをおこなうことにより、安全性の確認をおこなっている（写真下）。

本文32頁参照（撮影：降幡順子）





高知県中芸地区森林鉄道遺産の調査
明治末期から昭和戦前期にかけて建設され、昭和38年に廃線となった森林鉄道に関わる遺構の調査。路体・橋梁・隧道等の多くの遺構を確認し、その歴史的価値を明確にした。これらは、地域の歴史を伝えるかけがえのない遺産であるとともに、自然に溶け込んだ美しい景観を形成している点でも価値は高い。写真は、昭和7年に完成した小島影橋。北西から。

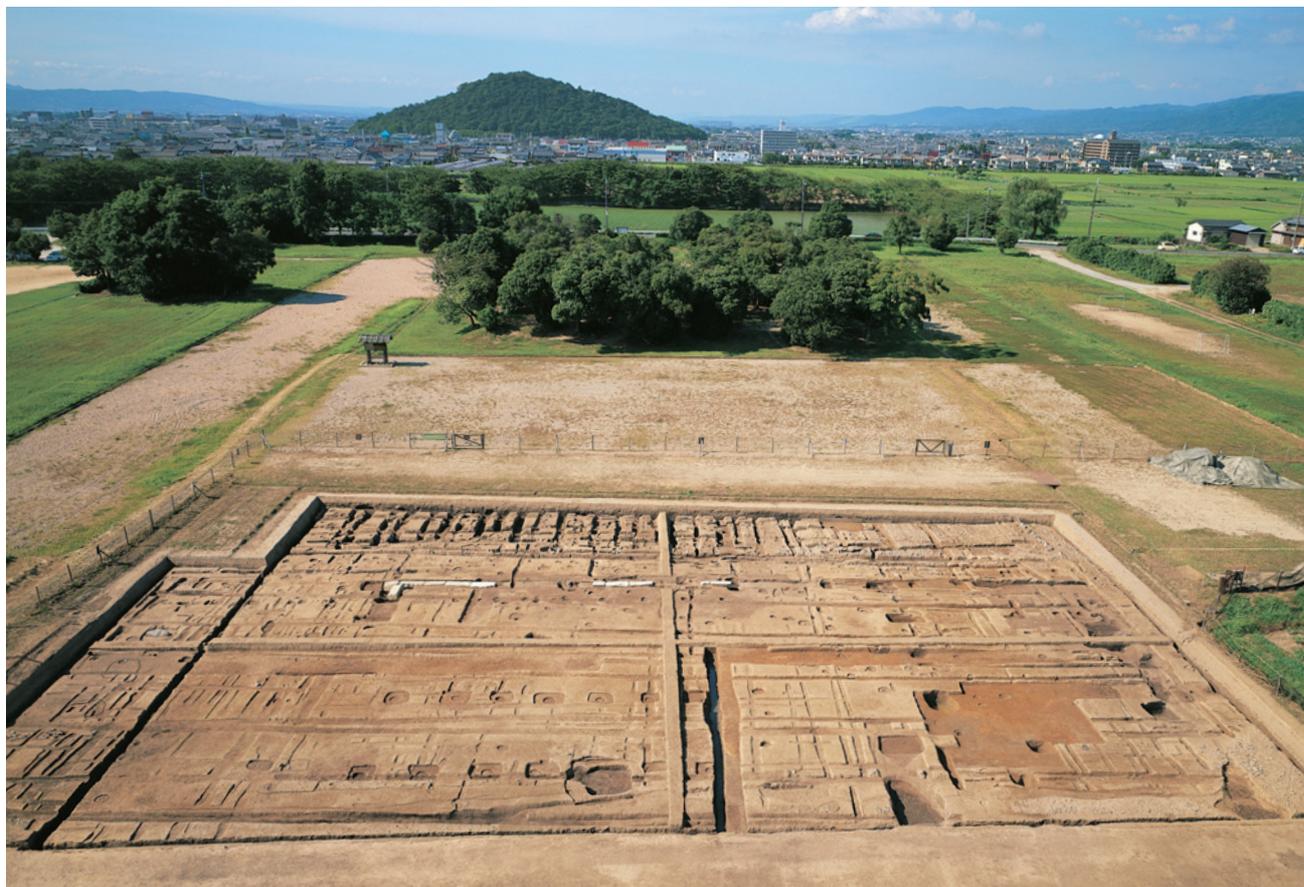
本文50頁参照（撮影：杉本和樹）

四万十川の旧流路とその景観

四万十川流域では、河川の穿入蛇行跡に形成された小丘地形を15地区で確認した。これらの地区では、旧河床部を水田として、山裾を居住地として利用し、さらに独立丘部分に社堂を祀るといふ土地利用により景観が構成されていた。写真は高知県高岡郡四万十町下津井地区の旧流路部分。

本文52頁参照（撮影：恵谷浩子）





藤原宮大極殿院南門の調査（飛鳥藤原第148次調査）
 東西40.1m×南北14.4mという長大な南門基壇を確認した。調査区北部の石材は北面階段の一段目である。掘込地業などの南門築成過程が明らかとなり、また宮造営当初に機能した運河SD1901Aが南方に延びることも確認した。奥には大極殿が見える。南から。 本文58頁参照（撮影：井上直夫）



藤原宮大極殿院出土の地鎮具
 大極殿院南面西回廊の範囲内で確認した地鎮遺構SX10713から出土した。宮造営時の整地土を掘り込んだ土坑の中に置かれており、口縁部に富本銭が9枚、胴部の中に水晶原石9点が納められていた。藤原宮の造営に伴う地鎮具として重要な資料である。 本文58 頁参照（撮影：井上直夫）



石神遺跡の調査

(飛鳥藤原第145次調査)

盛土工法によって造られた阿倍山田道を確認した。南側溝と考えられる数条の溝を検出し、数回の造り替えがおこなわれていたことがわかる。調査区の隣を走る県道の先には山田寺がある。西から。

本文90頁参照 (撮影：井上直夫)

阿倍山田道の敷葉工法

阿倍山田道の盛土の基礎には部分的に敷葉工法が採り入れられていた。ツブラジイ・サカキ・シャシャンボなどの枝を葉がついたまま用い、枝は南北に方向をそろえている。北から。

本文90頁参照 (撮影：井上直夫)





石神遺跡の調査（飛鳥藤原第150次調査）

写真奥中央の2001年度調査区の東隣接地を発掘した。斉明朝の建物が集中する地区の北限施設である石組溝と、須弥山石出土地点付近から続く総延長200m以上の石組基幹水路が接続する。西調査区を東から。

本文102頁参照（撮影：井上直夫）



高松塚古墳の調査（飛鳥藤原第147次調査）

国宝高松塚古墳壁画解体修理に伴う発掘調査。2007年4月5日より開始された石室の解体作業は、8月21日までに全16石の取り上げを無事完了。11箇月間に及んだ発掘調査では、墳丘や石室の構築過程とともに、壁画保存環境の劣化原因を解明する上でも多くの成果が得られた。写真は5月17日の東壁石3取り上げ後の石室。北から。

本文82頁参照（撮影：中村一郎）



平城宮東方官衙地区の調査

(平城第406次調査)

第二次大極殿院・東区朝堂院と東院地区とに挟まれた空間につき、基幹排水路SD2700の東と西に官衙区画を確認した。基幹排水路東の区画南半には、高さ1.8mを超える基壇建物が中心的な施設として存在し、基幹排水路西の区画では、東西両底付の礎石建物等を確認した。南東から。

本文114頁参照 (撮影：杉本和樹)

基幹排水路SD2700

今回の調査地点では、基幹排水路の幅は約2.7m、深さ約1.1mであったことを確認した。東岸は素掘りとし、西岸はヒノキの丸杭を密に打ち込んで護岸する。北東から。

本文118頁参照 (撮影：牛嶋茂)



平城宮東院地区中枢部の調査

(平城第421次調査)

単廊形式の回廊や、東院南門（建部門）に軸線を揃える東西棟建物を検出したことで、東院中枢部の区画の変遷がほぼ明らかになるとともに、中枢部分が調査区北東側（写真右側）に存在したとする推定がさらに確実となった。調査区全景北東から。

本文125頁参照（撮影：杉本和樹）



西大寺薬師金堂の調査（平城第422次調査）

浄土院境内において薬師金堂の基壇を確認した。6基の柱穴を検出し、柱穴内には巨大な凝灰岩切石が2基据えられているものもあった。今回の調査で薬師金堂の構造がほぼ明らかとなった。西から。

本文148頁参照（撮影：牛嶋 茂）



平城宮東院地区中枢部の調査（平城第423次調査）

総柱建物をはじめとして、多数の石組溝、礫敷などを検出し、5時期の変遷を確認した。奥に宇奈多理神社の森をのぞむ。北から。

本文133頁参照（撮影：中村一郎）

多数の石組溝と礫敷

今回の調査では、同時期の石組溝を多数検出した。礫は石組溝のそばから敷かれている。東から。

本文133頁参照（撮影：中村一郎）